



フォーミュラ V 奪還へ

@CAMPUS @キャンパス



全日本学生大会 京都工繊大チームの挑戦

さらに他大会で後れを取っていたコーナーリング性能も追求した。切り返しの多いテクニカルセクションでは、この性能の高さが勝負を分ける。攻略のためサスペンションは取り付け位置を見直し、タイヤの角度も最適化した。フレーム剛性を強化し、操舵に対する応答性を向上

「速く走らせることが好きな人が多い」と副リーダーの4年、稲垣祐貴さん(21)は付け加えた。みんなを知恵を絞り、より良いマシンを作れた時は嬉しさも相まって達成感がある。

チームの目標は総合優勝だ。昨年はこの位置。オーストリアから来たクラッシュ工科大に届かなかった。また出て来る。今年こそは」と中田さんは奮起を誓う。

製作現場を訪れると、ちょうど車体のフレームを溶接中だった。熱さははげしい。直接見られないほど暑い。今回は4年ぶりの優勝奪還に向け、大胆な設計変更も踏み切り、小さな部品からすべて作り直しているという。

特にエンジン本体や周辺機器を新たに開発した。クラッシュ工科大のマシンはコストのかけ方が違う。今回、チームも開発費の増額に踏み切ったと中田さん。エンジンが最も効率よく力を発揮できる「パワーバンド」が以前より広くなり、どの回転数からでもしっかり加速できるようにした。

フォーミュラには、フォーミュラカーと呼ばれるタイヤとドライバーがむき出しのレーシンググローブにまっしらす。全日本学生フォーミュラ大会では大学や高専などの学生によるチームが目のマシーンで競う。「勝ちに行きたいです」。



全日本学生フォーミュラ大会で、2012年に優勝した京都工芸繊維大チーム「グラッパデルフィノ」は、その後の大会でも上位に食い込み、強豪校として名を上げながら、頂点からは遠ざかってきた。昨年は2位。国内チームはすべて抑えたが、海外チームにあと一歩及ばなかった。伝統の誠実なものでづくりへの姿勢と強いチームワークで悲願の返り咲きを目指すメンバーの姿を追った。



溶接

コスト審査

車体整備



構想、設計、製作、改善 - 自作の車両、総合力で勝つ



9月6~10日・静岡で開催
グランデルフィノが全日本学生フォーミュラ大会に初めて挑んだのは、2007年だ。成績は出場62チーム中、52位だった。初出場から5年後の12年に念願の優勝を獲得して以降、上位を維持している。

今年の大会は9月6~10日間で、静岡県浜州市の小笠山総合運動公園で開催される。

4月29日には同運動公園で今年製作したマシンを走らせた。「実際のコースを想定した初めての走行でしたが、タイムは製作直後のこの時期でも、昨年に匹敵する速さ。かなり手応えがあります」。

テクニカルリーダー兼ドライバーの3年、野瀬尊さん(21)は意気込みを語った。今年の大いへの期待もますます高まる。

「速く走らせることが好きな人が多い」と副リーダーの4年、稲垣祐貴さん(21)は付け加えた。みんなを知恵を絞り、より良いマシンを作れた時は嬉しさも相まって達成感がある。

チームの目標は総合優勝だ。昨年はこの位置。オーストリアから来たクラッシュ工科大に届かなかった。また出て来る。今年こそは」と中田さんは奮起を誓う。

製作現場を訪れると、ちょうど車体のフレームを溶接中だった。熱さははげしい。直接見られないほど暑い。今回は4年ぶりの優勝奪還に向け、大胆な設計変更も踏み切り、小さな部品からすべて作り直しているという。

特にエンジン本体や周辺機器を新たに開発した。クラッシュ工科大のマシンはコストのかけ方が違う。今回、チームも開発費の増額に踏み切ったと中田さん。エンジンが最も効率よく力を発揮できる「パワーバンド」が以前より広くなり、どの回転数からでもしっかり加速できるようにした。

さらに他大会で後れを取っていたコーナーリング性能も追求した。切り返しの多いテクニカルセクションでは、この性能の高さが勝負を分ける。攻略のためサスペンションは取り付け位置を見直し、タイヤの角度も最適化した。フレーム剛性を強化し、操舵に対する応答性を向上

「速く走らせることが好きな人が多い」と副リーダーの4年、稲垣祐貴さん(21)は付け加えた。みんなを知恵を絞り、より良いマシンを作れた時は嬉しさも相まって達成感がある。

今週の記者

工芸科学部
3年 岸田 彩花(20)
2年 嶋田 雄介(20)

うちのプロジェクト

京都工芸繊維大の魅力を生目録で発掘・発信することで、京都や日本、世界での知名度向上やブランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイスブ

ックやツイッター、LINE(無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介紙の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。

京都工芸繊維大
広報チーム
K-NOSBY